

暖流寒流

手前味噌
だが、弊紙
3面に連載
中の小説
「石巻若宮
丸漂流物

語」は、読者から好評を得ている▼この物語は、江戸中期の実話に基づいている。改めてあらすじを紹介する。千石船「若宮丸」が、江戸に米を運ぶため石巻港を出港したのは寛政5年（1793年）。しかし、その途中に福島県沖で暴風に遭い漂流。半年後にロシア領に漂着した▼主人公の乗組員16人の中には死亡したり、ロシアに残る者もいて、日本に帰ってきたのは4人。漂流から11年後のことだ。帰国時の航路をたどると、日本人として初めて世界一周したことになる▼すごい記録

をもつ地元の先人たちを取り上げたのが若宮丸漂流物語。作者は石巻市出身の大島幹雄さん。ロシアでも取材し、丹念に乗組員の足跡を調べ上げての執筆だ▼極寒地生活の労苦、望郷の念など心の動きを絶妙な筆致で描いている。その行間から伝わってくる大島さんの故郷石巻への思いも、読者を引きつける理由ではなからうか▼大島さんは震災後、苦勞している市民のために筆をとった。先人のようにあきらめずに、この難局を乗り越えてほしいとの願いを込めてつづる物語でもある▼読者にはこの大島さんの思いを感じていただきたい。

（24年6月28日）